

# 東建パブリニュース

平成30年10月18日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

**掲載** 平成30年10月16日 中部経済新聞 P. 2

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

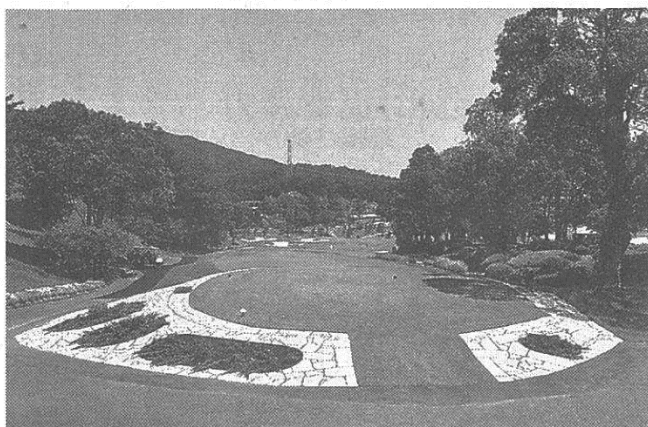


### ティーグラウンドを石張りに

東建コーポレーションは、ゴルフ場のティーグラウンドに石張りを施工する構造で、実用新案を取得した。ボールの打ち出し場所となる「ティーグラウンド」は通常、芝生だが、一部を石に変えることで、芝刈りや傷んだ芝の張り替えなどメンテナンスにかかる手間や費用を抑えることができる。同社では自社運営のゴルフ場で採用を広げる計画。(記事は2面に)

NEWS  
ピックアップ

## 東建コーポ 実用新案を取得



石張り芝とのコントラストが映える「東建多度カントリークラブ・名古屋」(桑名市)

東建コーポレーションは、ゴルフ場のティーグラウンドに石張りを施工する構造で、実用新案を取得した。ボールの打ち出し場所となるティーグラウンドは通常、芝生だが、一部を石に変えることで、芝刈りや傷んだ芝の張り替えなどメンテナンスにかかる手間や費用を抑えることができる。同社では自社運営のゴルフ場で採用を広げる計画。景観の向上にもつなげ、利用増を目指す。(竹田ゆりこ)

同社が運営するゴルフ場「東建多度カントリークラブ・名古屋」(桑名市)で、全18ホール中、11ホールのティーグラウンドで石張り構造を取り入れた。ボールを打つ場所をぐるりと囲むような形で、石張りを施工。約4年前から取り組みを始め、効果をみながら施工範囲を拡大してきた。

実用新案は、このティーグラウンドの石張り構造について、このほど取得。主に傾斜部分を石に変えることで、難易度の高い斜面での芝刈りや張り替えの作業

## ゴルフ場の一部石張り メンテナンス費を低減、景観向上も

東建コーポレーションは、ゴルフ場のティーグラウンドに石張りを施工する構造で、実用新案を取得した。ボールの打ち出し場所となるティーグラウンドは通常、芝生だが、一部を石に変えることで、芝刈りや傷んだ芝の張り替えなどメンテナンスにかかる手間や費用を抑えることができる。同社では自社運営のゴルフ場で採用を広げる計画。景観の向上にもつなげ、利用増を目指す。(竹田ゆりこ)

を軽減する。肥料や除草剤を散布する手間も省く。年内に、別の2ホールでも石張りを取り入れる予定。これにより、芝生面積を従来よりも約1400平方メートル抑えることができ、同じ面積を芝生で管理する場合同比でメンテナンスコストを約3割削減する。残り5ホールについては未定だが、順次、検討するという。

ゴルフ場の芝生は通常、プレイヤーが通る場所は擦り切れ防止のためにゴムマットや枕木、人工芝などを使うが、見た目が課題になることも多い。石張り構造では見映えも重視し、御影石や高級人造石などを用いることで、景観向上につな

げている。

東建多度カントリークラブ・名古屋は、毎年春に男子プロゴルフツアーの開戦「東建ホームメイトカップ」が行われ、本格的なトーナメントコースとして知られる。年間の利用者は約4万8千人で、三重県内のゴルフ場としては最大規模。ただ、ゴルフ人口が減少傾向にある中、同ゴルフ場は差別化戦略の一環で美化活動を強化している。

安江哲也総支配人は「芝はいったん荒れてしまうと元に戻るのが大変。今、手を打つことで今後、ゴルフ場の運営・管理に大きな効果があらわれると考えている」としている。